

親友のあなたへ

古城真秀子

岡山県・二九・小児科医

「親友になってほしい、男女間の友情は君となら成り立つと信じてる」と声をかけてくれた時、私には結婚を前提につき合っている人がいました。あなたは友達として私の心をどんどん占領するようになり、ついには私は結婚したい程好きなのではなく恋に恋しているだけだ、という事実まで気付かせてくれました。ちよっぴり迷って結婚はしないことに決めましたが、淋しさからではなくあなたを好きになってしまったようです。

親友になるための努力はしたつもりです。それがいつのまにか恋人として認めてもらうための努力になっていました。不自然さに気付きましたか？ 友達を装って実はあなたの周囲の女の子に目を光らせていたことを。少し性格が陰湿になってしまったようです。

でも親友としてでよいから認めてほしいので、表面的には今まで通り振る舞うつも

りです。でもあなたに恋人ができたなら？ 平静を保って親友のふりなんてできません。あなたが親友に立候補してくれたお返しに、私が恋人に立候補してはいけませんか。すれ違いばかりの毎日、留守番電話のテープの声しか聞けず、会えるのは一年に一、二回。私のことを思い出してくれるのはポストの中に私からの手紙を見つけた時だけでしょう。毎日のように手紙を出してしまうけど、陰湿な内容にならぬように書くのは実はつらいのです。恋文にならぬよう、重荷にならぬよう書くことに疲れてしまいました。

この手紙出してしまってもよいでしょうか。

でもいつもの手紙のように読んで下さるかしら。この手紙のせいで今まで大切に育ててきた友情が壊れてしまうのなら、友情ってやはりもろい物だとあきらめがつくでしょう。

でももしかしたら、万が一でも可能性があるのなら恋人に立候補してみたいのです。

*岡山と静岡に離れて三年目、医者同士でまず会うことは不可能に近い関係です。